

令和5年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
基礎理学療法学演習Ⅱ		演習・講義	小林 正明・谷 和真	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
理学療法評価・治療の実習での実施を見据え、対象者との対応・問診、症例情報の整理、症例あるいはペーパーペーシエントを通しての統合と解釈の実際を経験し、その大切さを認識する。また実習における記録の方法を修得する。				
授業の到達目標				
1. ロールプレイなどから対象者との対応・問診を実践する。 2. 症例情報を整理して、症例の全体像が説明できる。 3. 理学療法評価、その統合と解釈、治療の立案までの流れを経験し、自ら調べたことなども含めて、障害像について説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	オリエンテーション			
2	症例報告とは、症例レポート・レジюмеについて			
3	患者情報の分類			
4	理学療法評価からの統合と解釈（KJ法）（1）			
5	理学療法評価からの統合と解釈（KJ法）（2）			
6	理学療法評価からの統合と解釈（KJ法）（3）			
7	ロールプレイ 患者様との対応を学ぶ（1）			
8	ロールプレイ 患者様との対応を学ぶ（2）			
9	ケーススタディ 症例に基づく学修（PBL:Problem-based learning）（1）			
10	ケーススタディ 症例に基づく学修（PBL:Problem-based learning）（2）			
11	ケーススタディ 症例に基づく学修（PBL:Problem-based learning）（3）			
12	ケーススタディ 症例に基づく学修（PBL:Problem-based learning）（4）			
13	ケーススタディ 利用者様から学ぶ（関連施設での実習）（1）			
14	ケーススタディ 利用者様から学ぶ（関連施設での実習）（2）			
15	臨床実習に向けたまとめ・演習			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験				
レポート・課題	60%	講義中に出される課題、レポートを評価する		
小テスト				
平常点	20%	出席や課題・グループワークへの参加態度を評価する		
その他	20%	関連施設での実習へ取り組む姿勢や提出物を評価する(実習前後の準備や振り返りも含める)		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学	内山靖		医学書院	
PT・OTのためのコミュニケーション実践ガイド	山口美和		医学書院	
自由記載				
備考				
これまでに学んだ疾患・理学療法評価・治療に関する知識も必要です。事前にアナウンスするので、必要と思う資料を各自準備すること。実習については、感染症の状況によっては学内での実習に変わる場合もあります。				